

令和 7 年(2025年) 6 月 20 日

長 野 県 農 業 試 験 場

病害虫発生予報 第 3 号

(向こう 1 か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	やや多	並	
	さび病	全域	やや少	並	
	うどんこ病	全域	やや少	並	
水稻	葉いもち	全域	並	並	
	縞葉枯病・黒条萎縮病 (媒介虫：ヒメトビウンカ)	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ(第 1 回成虫) (黄萎病)	全域	並	並	
	ニカメイガ(第 1 世代幼虫)	全域	並	やや遅	
	イナゴ	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
りんご	イネミズゾウムシ	全域	並	やや早	
	黒星病	全域	並～やや少	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並～やや多	一	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ (ハマキムシ類)	全域	並	並	
な し	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	アブラムシ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	やや多	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	

も も (ネタリを 除く)	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	並	並	
	灰星病	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類 (モモシンクイガ)	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並～やや多	並	
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
トマト	灰色かび病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
きゅうり	うどんこ病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
アブラナ 科野菜	べと病	全域	並	並	
	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	やや多	並	
はくさい	ウワバ類	全域	並～やや多	並	
	ピシウム腐敗病	全域	並～やや多	並	
	軟腐病	全域	並～やや多	並	
レタス	すそ枯病	全域	並	並	
	べと病・菌核病・灰色かび病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	
	軟腐病・腐敗病	全域	並～やや多	並	
アスパラ ガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウシホシクビナガハムシ	中山間	並～やや多	並	
たまねぎ	黒斑病	全域	並	並	
ねぎ・たま ねぎ	べと病	全域	並	並	
野菜・花き 全般	アザミウマ類	全域	並～やや多	並	
	コナジラミ類	全域	並～やや多	並	
	アブラムシ類	全域	やや多	並	
	ハモグリバエ類	全域	並	並	
	オオタバコガ	全域	並～やや多	並	
	ヨトウガ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	やや多	並	

※発生時期の「一」は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

Ⅱ 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和7年6月19日発表）

【関東甲信地方 6月21日～7月20日】

気温は、暖かい空気に覆われやすく高い。特に、期間の前半は、気温がかなり高い。

◎関東甲信地方 向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間

区 分	見込み	予想される出現確率（％）		
		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	高い	10	10	80
降 水 量	少ない	50	30	20
日照時間	多い	20	30	50

2 予報の根拠にかかる気象要因

（＋）は発生を増加させる要因、（－）は発生を減少させる要因を示す。

Ⅲ 麦

1 赤かび病

- （1）予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並
（2）予報の根拠

6月上旬の巡回調査では、コムギ赤かび病の発生はみられなかった。ただし、南信地域、北信地域の一部ほ場で発生がみられた。

（3）防除上の留意点

- ①収穫前に発生の有無、発生程度を確認する。
②収穫後の穂は水分を含んでおり、病原菌が増殖する危険があるため、収穫後はできるだけ速やかに乾燥させる。
③発生ほ場の収穫作業及び収穫物の扱いは、関係者と協議して対応する。

2 さび病

- （1）予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並
（2）予報の根拠

- ①6月上旬の巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域の一部ほ場でコムギ赤さび病の発生がみられたが、発病度は平年と比べ低かった。
②コムギ黄さび病の発生はみられなかった。

（3）防除上の留意点

赤さび病については、発病ほ場での茎葉等の収穫物残さや、収穫漏れの麦粒（こぼれ麦）から発芽した株は、次年作への伝染源となるので適切に処分する。

3 うどんこ病

- （1）予報の内容 発生量：やや少ない 発生時期：平年並
（2）予報の根拠
巡回調査では、北信地域の一部ほ場で発生がみられたが、発病度は平年と比べ低かった。
（3）防除上の留意点
曇雨天が続くと発生が多くなる。また、遅播き、窒素肥料の過剰、追肥時期の遅れ等による軟弱過繁茂のほ場では発生が多くなるので注意する。

Ⅳ 水稻

1 葉いもち

- （1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
（2）予報の根拠
葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月3日～4日に広域に準感染好適条件が出現したが、6月5日～9日までは感染好適条件は平年と比べやや少なかった。
（3）防除上の留意点
①補植用苗は伝染源となることが多いため、早期に除去する。
②早期発見に努めるとともに、発見し次第直ちに防除を行う。

2 縞葉枯病・黒条萎縮病（媒介虫：ヒメトビウンカ）

- （1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
（2）予報の根拠
①近年、縞葉枯病の発生地域が拡大している。
②前年のヒメトビウンカの縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査では、保毒虫率の高い地域がみられたが、縞葉枯病の発生地域では、苗箱施薬剤を用いたヒメトビウンカの初期防除が推奨されている。
（3）防除上の留意点
水稻、麦類の混作地帯では、麦類の登熟期以降、水田への飛び込みが増加するので注意する。

3 黄萎病（媒介虫：ツマグロヨコバイ）

- （1）予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
（2）予報の根拠
①近年、生育期における本病の発生地域が減少している。
②前年のツマグロヨコバイの発生量は平年並であるため、越冬卵量も平年並と推定される。

4 ニカメイガ（第1世代）

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや遅い**

（2）予報の根拠

①近年、東信地域の一部のほ場で、被害が増加している。

②上田市の予察灯調査では、5月第5半旬から誘殺され、発生時期は平年と比べ遅かった。また、5月の誘殺頭数は平年と比べやや少なかった。

③須坂市八重森の予察灯調査では、5月第5半旬から誘殺され、発生時期はほぼ平年並であった。5月の誘殺頭数は平年並であった。

④小布施町のフェロモントラップ調査では、5月第6半旬から誘殺され、発生時期は平年並、5月の誘殺頭数はほぼ平年並であった。

（3）防除上の留意点

第1世代幼虫の防除適期は、発蛾最盛期の10日～15日後で、北信地域では通常6月下旬頃である。

5 イナゴ

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

前年の成虫発生量は、平年並であったため、越冬卵量も平年並と推定される。

（3）防除上の留意点

若齢期の防除効果が高いので、発生量が多い場合には7月上旬頃までに防除を行う。

6 イネドロオウムシ

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

①6月上旬の巡回調査では、成虫寄生頭数はほぼ平年並であった。

②例年、6月中旬から幼虫加害初期となる。

（3）防除上の留意点

①苗箱施薬をしていても発生が多い場合には、本田防除を実施する。

②カーバメート薬剤に対する抵抗性が発達している地域は、薬剤選定に留意する。

③本田における茎葉散布剤の防除適期は、幼虫の加害初期（幼虫による葉の食害が見え始める頃）である。

7 イネミズゾウムシ

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早い**

（2）予報の根拠

①アメダス気象データを用いた有効積算温度から算出した越冬地からの半数脱出推定時期は、北信地域、中信地域の一部では平年と比べやや遅かったが、全県においては平年と比べやや早かった。

②6月上旬の巡回調査では、成虫の確認頭数は東信地域、南信地域は平年並、中信地域、北信地域は平年と比べ少なかった。

（3）防除上の留意点

①苗箱施薬をしていても発生が多い場合には、本田防除を実施する。

②要防除水準は、株当たり成虫1頭以上である。

③被害の早期発見に努め、多発する前に「農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、防除する。

V りんご

1 黒星病

（1）予報の内容 発生量：**平年並～やや少ない** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

①全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。

②子のう胞子の初飛散は、4月1日に確認された。

③須坂市（果樹試験場）の無防除樹における新梢の発病葉率は、6月10日時点で7.2%と平年より低かった。

（3）防除上の留意点

①薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、「県防除基準」を参照し、薬剤を選定する。

②散布間隔を空けすぎないように留意し、降雨状況等を勘案して、定期的に防除する。

2 斑点落葉病

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

伝染源量は、平年並と予想される。

（3）防除上の留意点

例年、6月中下旬から発生が増加する。降水量が多くなると多発することが予想されるため、「県防除基準」を参照し、間隔を開けず定期的に防除する。

3 輪紋病

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

越冬伝染源量は、平年並と予想される。

（3）防除上の留意点

「ふじ」では6月から感受性が高くなり、重点防除時期にあたる。散布間隔を空けすぎないように留意し、薬液が十分かかるように定期的に防除する。

4 炭疽病

（1）予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

（2）予報の根拠

越冬伝染源量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

伝染源となる植物が近くにないか注意し、散布間隔を空けすぎないように留意して、薬液が十分かかるように定期的に防除する。

5 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い**

(2) 予報の根拠

①近年、発生量はやや多い傾向である。

②巡回調査では、東信地域、北信地域で枝腐らん及び胴腐らんの発生がみられた。

また、調査ほ場以外でも発生が散見され、発生量はやや多い傾向である。

(3) 防除上の留意点

①園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。

②病斑の削り取りを適切に行った後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。

また、処理後も再発していないかを定期的に確認する。

③枝幹部にも、薬剤が十分かかるように散布する。

6 キンモンホソガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬世代成虫の発生量は平年並であった。

②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査では、5月下旬から誘殺頭数が増加し始めた。

③果そう葉への寄生は、平年並である。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤で防除する。

7 スモモヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

須坂市（果樹試験場）では、越冬世代成虫におけるフェロモントラップへの誘殺ピーク時の頭数は平年と比べ多かったが、その後平年並であった。

(3) 防除上の留意点

①第1世代成虫は、平年は6月下旬から7月上旬に発生するので、適期防除に努める。

②「県防除基準」を参照し、シンクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では、散布間隔を約10日間とする。

8 ナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、新梢先端部の「芯折れ」症状はみられなかった。

②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査では、4月以降5月2半旬までは継続的に誘殺されていたが、5月3半旬以降は確認されていないので発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②第1世代成虫は6月上中旬から7月上旬に発生するので、防除が遅れないよう留意する。

③6月に芯折れ症状が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。

④芯折れの被害枝は、切除して焼却処分する。

⑤有袋栽培でも加害されることがある。

9 モモシンクイガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

越冬世代成虫の発生量は平年並、発生時期は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①越冬世代成虫は、平地で6月上旬頃から発生し、7月上旬頃に盛期となる。

②発生園では「県防除基準」を参照し、6月中下旬から防除する。

10 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、寄生は観察されなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、発生が多い場合は殺ダニ剤を散布する。

②防除は、散布むらが生じないようにする。

11 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、寄生は観察されなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、発生が多い場合は殺ダニ剤を散布する。

②防除は、散布むらが生じないようにする。

12 リンゴコカクモンハマキ（ハマキムシ類）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

②須坂市でのフェロモントラップの調査では、誘殺されなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、第一世代幼虫が出揃う6月中旬～下旬に防除する。

②交信かく乱剤は、遅れないように設置する。

VI なし

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「幸水」、「豊水」は果実肥大期にも感受性が高まり、感染しやすくなる。
- ②降雨前の予防散布を基本とし、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
受粉樹が伝染源となって多発を招く事例もあるため、受粉樹の防除も行う。
- ③散布むらが生じないようにする。
- ④罹病果、罹病葉は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- ⑤前年に発生が多かったほ場、開花期前後の防除間隔が空きすぎたほ場では、発生状況に注意し、今後の果実感染を予防する対策を講じる。

2 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨前の予防散布を基本とし、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
- ②「二十世紀」、「南水」では、袋掛けまでの防除を徹底するとともに、防除間隔が空きすぎないようにする。また、袋掛け作業が遅れないよう留意する。
- ③発生ほ場では下草を刈るとともに、防風ネットを一時的に除去する等により、栽培環境を改善する。
- ④発病果は見つけ次第、除去する。

3 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①降雨前の予防散布を基本とし、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。
- ②果実や主枝部に薬液が十分かかるように散布する。

4 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、南信地域の一部のほ場でワタアブラムシの発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②主な発生種であるワタアブラムシは、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等に対して感受性が低い場合があるので注意する。
- ③葉が巻いてからでは十分な防除効果は得られないので、発生初期に防除する。

5 カメモシ類

(1) 予報の内容

発生量：やや多

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップ調査では、クサギカメモシは誘殺されなかった。チャバネアオカメモシは、5月第4半旬から誘殺され、第5半旬にピークがみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①越冬地である高森町内の雑木林では、フェロモントラップへの誘殺数が平年よりも多く推移しているため、園内をこまめに巡回し、発生状況を確認する。
- ②発生園では、「県防除基準」を参照し、早めに防除する。

6 シンクイムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

②高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップ調査では、ナシヒメシンクイの5月上旬～中旬の誘殺頭数は、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①第1世代成虫の平年の発生は、6月中旬頃からである。
- ②6月に「芯折れ症状」が多い場合には、第2世代幼虫の防除を徹底する。
- ③産卵ピーク時期には、防除間隔を2週間以上空けないようにする。

7 リンゴハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①ほ場での発生状況に注意し、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

8 ナミハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①ほ場での発生状況に注意し、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。
- ②散布むらが生じないようにする。

9 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量：平年並

発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、越冬世代幼虫による食害はみられなかった。

②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップ調査では、誘殺頭数は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①越冬世代成虫の平年の発生時期は、5月下旬～6月中旬である。
- ②発生時期を把握し、遅れないように防除する。
- ③交信かく乱剤は、遅れないように設置する。

Ⅶ もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②近年、発生は平年並である。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、防除する。

2 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、東信地域、北信地域の多くのほ場で発病葉がみられ始めた。
 - ②越冬伝染源量は平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①春型枝病斑は見つけ次第、必ずせん除し、埋没処分等を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、抗生物質剤等を選択して防除する（使用時期に注意）。
これらの剤は、薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、使用回数に注意する。
 - ③有袋栽培では、早めに袋掛けを行う。

3 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
いずれの品種も収穫 20 日前頃からの防除が重要となるので、「県防除基準」を参照し、防除する。

4 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、被害葉がみられなかった。
 - ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査では、5月第5半旬から第1世代成虫の誘殺がみられた。
- (3) 防除上の留意点
成虫発生初期に、食入防止効果のある薬剤を選択して防除する。

5 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、寄生葉はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、散布むらが生じないように防除する。

6 シンクイムシ類（モモシンクイガ）

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
長野市のフェロモントラップ調査では、5月は誘殺されなかった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

7 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、新梢被害はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

8 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並～やや多い** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、果実被害はみられなかった。
 - ②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップ調査では、誘殺数が平年より多かった。
 - ③気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発病葉はみられなかった。
 - ②須坂市（果樹試験場）の無防除樹における新梢葉での発病は、6月5日時点で確認されていない。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、降雨前あるいは降雨後、速やかに防除する。
- ②薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ③薬剤の散布むらが生じないように新梢管理を行う。
- ④防除実施後は、できるだけ早く袋掛けを行う。

2 灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ②落花期以降は花かす落としを励行し、被害花房や果房は見つけ次第除去する。
- ③薬剤の散布むらが生じないように、新梢管理を行う。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
①巡回調査では、被害葉はみられなかった。
②例年、6月下旬頃から発生量が多くなる。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、遅れることがないように防除する。
- ②薬剤の種類や散布時期によって、果粉溶脱や果粒に汚れを生じるものがあるので注意する。
- ③防除実施後は、できるだけ早く袋掛けを行う。

IX 野 菜

1 トマト灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適切なかん水や換気等により施設内の湿度低下に努める。
- ②葉などに落ちた花卉から発病する場合もあるので、適切に処分する。
- ③「県防除基準」を参照し、防除する。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 トマト輪紋病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①例年、この時期から発生が急増する。
- ②露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
- ③「県防除基準」を参照し、発病初期に防除を行う。

3 キュウリうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で2～3回薬剤防除を行う。その後も発生状況に応じて適宜に防除する。
- ②多発生してからは防除困難であるので、時期を逸することのないよう防除する。
- ③薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ④下葉で発病の著しいものは摘葉し、ほ場外へ持ち出す。

4 キュウリ褐斑病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。
- ②高温多湿条件で多発する。
- ③病斑上に形成される孢子により第二次伝染が起こるので、発病葉はすぐに摘葉し、適正に処分する。
- ④前年に発生したほ場では、残渣や資材に病原菌が付着している場合があるので十分注意する。

5 キュウリ灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**

(2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①施設栽培では通風をよくする。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。
- ③病斑上に形成される孢子により第二次伝染が起こるので、発病葉はすぐに摘葉し、適正に処分する。
- ④前年に発生したほ場では、残渣や資材に病原菌が付着している場合があるので十分に注意する。

6 キュウリベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①多湿条件で多発しやすい。また、生育後半や肥料切れで発生しやすくなるので注意する。
- ②下葉で発病の著しいものは摘葉し、適正に処分する。
- ③降雨や、かん水時の地表面からの水のはね上がりによって感染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
- ④「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。

7 アブラナ科野菜のべと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域のはくさいの一部のほ場で発生がみられた。
- ②低温多湿条件で発生しやすい。
- ③気象要因（－）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

8 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①アブラナ科野菜の連作は避ける。
- ②品種間の差が大きいので、品種選定に留意する。
- ③罹病苗を定植すると、生育初期から発生し、降雨によりほ場全面に拡大するので、育苗時の発生に注意し、発病苗は直ちに処分するとともに、発病苗周辺の苗も利用しない。
- ④発病茎葉は二次伝染源となるので、早期にほ場外に持ち出して処分する。
- ⑤気温が高く、降水量が多いと多発する。
- ⑥「県防除基準」を参照し、予防防除を基本とする。

9 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：**やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域のキャベツ及びブロッコリーの一部のほ場、中信地域のキャベツの一部のほ場、北信地域のキャベツで寄生がみられた。
- ②フェロモントラップによる調査では、小諸市、原村、朝日村、長野市など、多くの地点で5月の誘殺頭数が平年と比べ多い。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統・同一薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

10 アブラナ科野菜のウワバ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、南信地域のブロッコリー、中信地域のキャベツの一部のほ場で寄生がみられた。
- ②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統・同一薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

11 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②梅雨期に発生が多く、近年、発生は増加傾向にある。

(3) 防除上の留意点

- ①高温期は軟腐病が併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

12 ハクサイ軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域の一部のほ場で発生がみられた。例年、この時期から発生が急増する。
- ②高温多湿条件で多発する。
- ③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①害虫の食害痕から発病しやすいので、害虫を防除する。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

13 レタスすそ枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

巡回調査では、東信地域の一部のほ場、中信地域の一部のほ場で発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②結球始期に重点的に防除する。

14 レタスべと病・菌核病・灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域の一部のほ場で菌核病の発生がみられた。
- ②いずれの病害も、低温で降雨が続く時に発生が多い。
- ③気象要因（一）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②いずれの病害も、結球始期に重点的に防除する。

15 レタス斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、東信地域の一部のほ場で発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①降水量が多いと多発し、例年6月から発生が増加する。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

16 レタス軟腐病・腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②高温多雨条件で多発する。
- ③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
- ②降雨前あるいは降雨後、速やかに防除する。
- ③土壌の過湿は発病を助長するので、常発地・多発地では、排水対策を行う。

17 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①雨除けをすると、予防効果が期待できる。
- ②防除は、収穫打ち切りから立茎完了までの期間が特に重要である。
- ③切り株や残さについての病原菌が伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染する。残さを除去し、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
- ④病茎は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すなど適正に処分をする。

18 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、東信地域（露地栽培）、北信地域（露地栽培）で寄生がみられ、東信地域では寄生頭数が多かった。

(3) 防除上の留意点

- 「県防除基準」を参照し、防除する。

19 たまねぎの黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域で発生がみられた。
- ③気象要因（一）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①連作を避ける。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

20 ねぎ・たまねぎのべと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、中信地域のたまねぎで発生がみられた。
- ②降水量が多いと多発する。
- ③気象要因（一）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①ほ場の排水対策を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。

21 アザミウマ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多い** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域のいちご、南信地域のきゅうり（施設栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培）、中信地域のトマト（施設栽培）、きゅうり（施設栽培）、アスパラガス（露地栽培）、たまねぎ、ねぎ、北信地域のきゅうり（施設栽培、雨よけ栽培）、アスパラガス（雨よけ栽培）で寄生がみられた。

②青色粘着トラップによる調査では、誘殺頭数はほぼ平年並であった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①育苗期又は定植時に、登録適用のある薬剤を使用する。

②早期発見に努め、「県防除基準」を参照し、多発する前に防除する。

③アザミウマの種類によって、薬剤に対する感受性が異なるので、防除実施後に効果を確認し、系統の異なる薬剤で防除する。

④ほ場周辺の雑草や麦は場に寄生し、野菜畑へ飛び込む場合があるので、雑草防除等のほ場管理を行う。

22 コナジラミ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、北信地域のトマト（施設栽培）で寄生がみられた。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

早期発見に努め、「県防除基準」を参照し、多発する前に防除する。

23 アブラムシ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域のトマト（露地栽培）、ばれいしょ、中信地域のトマト（露地栽培）の一部ほ場、すいかの一部ほ場、ねぎ、北信地域のきゅうり（露地栽培）などで寄生がみられた。

②黄色粘着トラップによる調査では、多くの調査地点で、5月の誘殺頭数が平年と比べ多かった。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

早期発見に努め、「県防除基準」を参照し、多発する前に防除する。

24 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

巡回調査では、南信地域のねぎ、中信地域のたまねぎ、ねぎで寄生がみられた。

(3) 防除上の留意点

①苗床での防除を徹底する。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③収穫後の残さが発生源となりやすいので、速やかに処分する。

25 オオタバコガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、被害はみられなかった。

②各地で実施しているフェロモントラップ調査では、多くの地域（小諸市、御代田町、上田市、茅野市、伊那市、阿南町、塩尻市等）で平年と比べ誘殺頭数はやや多い。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②同一系統・同一薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤でローテーション散布する。

③結球野菜では、結球始期に1週間間隔で2～3回重点的に防除を行う。

26 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、被害はみられなかった。

②各地で実施しているフェロモントラップ調査では、南箕輪村、塩尻市でヨトウガの誘殺頭数が平年と比べやや多いが、その他の調査では概ね平年並の誘殺頭数である。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、防除する。

27 ハダニ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：やや多い 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、南信地域及び北信地域の施設栽培のきゅうりで発生がみられた。

②高温、乾燥状態で多発しやすい。

③気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ないと予想されている。

(3) 防除上の留意点

①早期発見に努め、「県防除基準」を参照し、多発する前に防除する。

②薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。